

ワイヤレスパソコンアダプタ 取扱説明書

このたびは、ワイヤレスパソコンアダプタをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。

お読みになったあとも、本装置のそばなどいつも手もとに置いてお使いください。



技術基準適合認定品
W-PADP

1
お使いになる前に

2
接続
インターネットへの

3
A T T
コマンド

4
ご参考に

安全にお使いいただくために必ずお読みください

この取扱説明書には、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本装置を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。

その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

本書を紛失または損傷したときは、当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店でお求めください。

本書中のマーク説明

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 お願い	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、本装置の本来の性能を発揮できなかつたり、機能停止を招く内容を示しています。
 お知らせ	この表示は、本装置を取り扱ううえでの注意事項を示しています。
 ワンポイント	この表示は、本装置を取り扱ううえで知っておくと便利な内容を示しています。

ご使用の際は取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本装置の仕様は国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。

This equipment is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通信などの機会を逸したために生じた損害等の纯粹経済損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

本装置を設置するための工事および修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は、違法となりまた事故のもととなりますので絶対におやめください。

本装置を分解したり改造したりすることは、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら当社のサービス取扱所へお申しつけください。

本書に、他社商品の記載がある場合、これは参考を目的としたものであり、記載商品の使用を強制するものではありません。

この取扱説明書、ハードウェア、ソフトウェアおよび外観の内容について将来予告なしに変更することがあります。

Windows®98は、Microsoft® Windows®98 operating systemの略です。

Windows®95は、Microsoft® Windows®95 operating systemの略です。

WindowsNT®4.0は、Microsoft® WindowsNT® operating system Version 4.0の略です。

WindowsNT®3.51は、Microsoft® WindowsNT® operating system Version 3.51の略です。

Windows、WindowsNTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

画面の使用に際して米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。

Hayesは米国Hayes Microcomputer Products Inc.の登録商標です。

その他、本文中に記載の社名や製品名は各社の商標または登録商標です。

警告

本装置を分解・改造したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。また、改造は法律で禁じられています。

本装置のキャビネットは外さないでください。感電の原因となることがあります。指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、当社のサービス取扱所にご連絡ください。

電源アダプタは、ほこりが付着していないことを確認してからコンセントに差し込んでください。また半年から1年に1回は、電源アダプタをコンセントから抜いて点検、清掃をしてください。ほこりにより火災・感電の原因となることがあります。

ふる場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは設置および使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

電源アダプタは、AC100 Vの商用電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

テーブルタップや分岐コンセント、分岐ソケットを使用した、タコ足配線はしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

お客様がご用意された機器を本装置に接続してお使いになる場合は、あらかじめ当社のサービス取扱所に確認してください。確認できない場合は、絶対に接続して使用しないでください。火災・感電の原因となることがあります。

本装置を移動させる場合は、電源アダプタをコンセントから抜いてから、行ってください。電源アダプタコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源アダプタは、必ず付属のものを使用し、それ以外のものは絶対にお使いにならないでください。火災・故障の原因となります。

万一、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認して、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。お客さまによる修理は危険ですから絶対におやめください。

万一、本装置を落としたり、キャビネットを破損した場合は、すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

万一、内部に水などが入ったり、本装置をぬらした場合は、すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。

本装置の内部に金属類や燃えやすいものなどの、異物を差し込んだり、落としたりしないでください。万一、異物が入った場合は、すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

異常音がしたり、キャビネットが熱くなっている状態のまま使用すると、火災・感電の原因となることがあります。すぐに電源アダプタをコンセントから抜いて、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

安全にお使いいただくために必ずお読みください

警告

本装置のそばに花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬用品や水の入った容器、または小さな金属類を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となることがあります。

電源アダプタコードに傷をつけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源アダプタコードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源アダプタコードが傷んだら、電源アダプタをコンセントから抜き、当社のサービス取扱所に修理をご依頼ください。

ぬれた手で電源アダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

注意

本装置底面にはゴム製のすべり止めを使用していますので、ゴムとの接触面が、まれに変色するおそれがあります。

直射日光の当たるところや、ストーブ、ヒータなどの発熱器のそばなど、温度の高いところに置かないでください。内部の温度が上がり、火災の原因となることがあります。

調理台のそばなど油飛びや湯気が当たるような場所、ほこりの多い場所、鉄粉や有毒ガスが発生する場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。また、本装置の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

振動・衝撃の多い場所に置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下してけがの原因となることがあります。

電源アダプタを電源コンセント（AC100V）に差し込むときは、確実に差し込んでください。電源アダプタの刃に金属などが触れると、火災・感電の原因となることがあります。

電源アダプタをコンセントから抜くときは、必ず電源アダプタの本体を持って抜いてください。電源アダプタコードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

近くに雷が発生したときは、電源アダプタをコンセントから抜いてご使用を控えてください。落雷によって、火災・感電の原因となることがあります。

本装置や電源アダプタコードを熱器具に近づけないでください。キャビネットや電源アダプタコードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源アダプタをコンセントから抜いてください。

本装置に乗らないでください。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。壊れてけがの原因となることがあります。

電源アダプタコードには、延長コードは使わないでください。火災の原因となることがあります。

お手入れをするときは、安全のため必ず電源アダプタをコンセントから抜いてください。

STOP お願い

製氷倉庫など特に温度が下がるところに置かないでください。本装置が正常に動作しないことがあります。

電気製品・AV機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところに置かないでください（電子レンジ、スピーカ、テレビ、ラジオ、蛍光灯、電気こたつ、インバータエアコン、電磁調理器など）。

- 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音等が大きくなったり、通信ができなくなることがあります（特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります）。
- テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
- 放送局や無線局などが近く、雑音等が大きいときは、本装置の設置場所を移動してみてください。

金属製家具などの近くは避けてください。

- 電波が飛びにくくなります。

周囲の環境（壁・家具など）によっては使用範囲が狭くなります。

硫化水素が発生する場所（温泉地など）では、本装置の寿命が短くなる場合があります。

本装置を積み重ねて使用しないでください。本装置を2台以上使用する場合、積み重ねて設置すると、内部に熱がこもり、キャビネットの表面が熱くなることがあります。

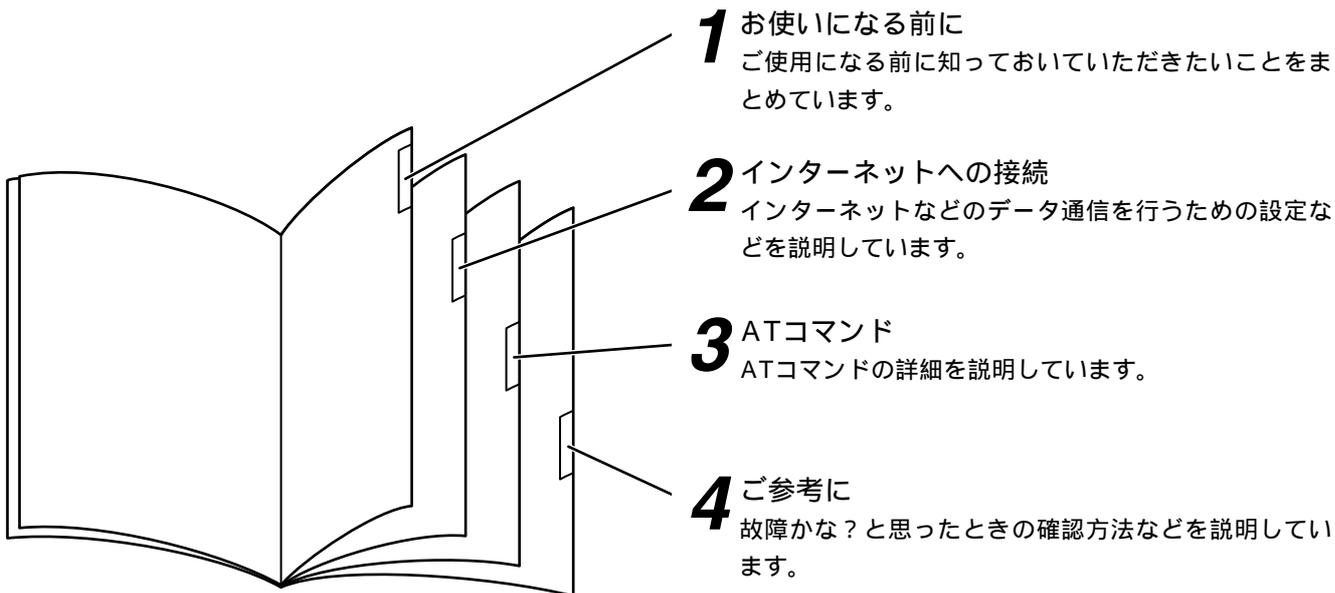
ベンジン、シンナー、アルコールなどでふかないでください。本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは、薄い中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、やわらかい布でからぶきしてください。

落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となることがあります。

コネクタに異物を差し込んだり、端子面をさわらないでください。故障の原因となることがあります。

この取扱説明書の見かた

この取扱説明書の構成



操作説明のページの構成

- 章タイトル**
章ごとにタイトルが付けら
れています。
- タイトル**
目的ごとにタイトルが付け
られています。
- 操作手順説明**
順番に操作を説明します。

- ワンポイント**
知っておくと便利な事項、
操作へのアドバイスなどの
補足説明です。

- お知らせ**
この表示は、本装置を取り
扱ううえでの注意事項を示
します。

目次

安全にお使いいただくために必ずお読みください	2
この取扱説明書の見かた	6

1 お使いになる前に

特長	8
セットを確認してください	9
各部の名前	10
接続します	11
電波の状態を確認する	11

2 インターネットへの接続

インターネット利用に必要な準備	12
Windowsの場合	12
インターネット利用までの手順	13
インターネットへの接続を設定するには	
（Windows®98の場合）	14
インターネット接続ウィザードで設定する	14
ダイヤルアップネットワークで設定する	16
プロバイダとの接続を確認する	17
インターネットにうまく接続できないときは	18
データ通信機能	19
相手側の装置に発信して接続する	19
INSネット64回線で相手側の装置からの	
着信を受ける	19
通信を終了する	19

3 ATコマンド

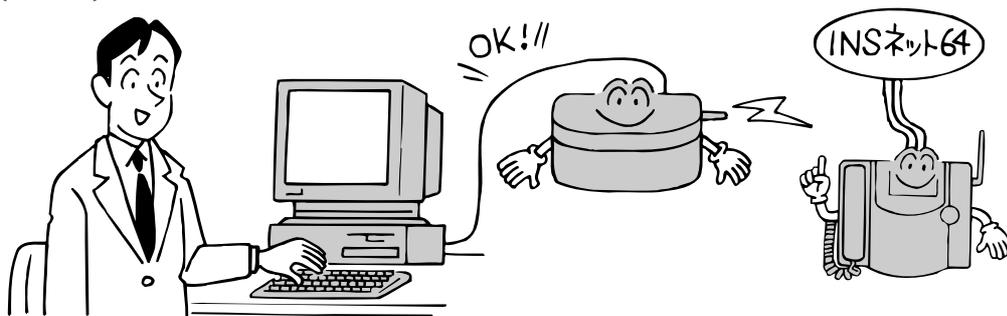
ATコマンドを入力するには	20
ATコマンド形式	22
コマンド形式	22
結果コード	22
レジスタ	22
コマンドモードとオンラインモード	22
ATコマンド一覧	23
ATコマンド詳細	24
結果コード一覧	28
レジスタ一覧	29

4 ご参考に

故障かな?と思ったら	30
索引	31
仕様	32
保守サービスのご案内	33

ISDNコードレスホンW-1000P、W-1100Pなどを介してINSネット64回線に接続可能

本装置とISDNコードレスホンW-1000P、W-1100Pなどを無線接続すると、INSネット64回線を使ってデータ通信を行うことができます。(●P19)



64kPIAFS / 32kPIAFS通信をサポート

64kPIAFSで接続できない場合は、自動的に32kPIAFSで接続し直すフォールバック機能を搭載しています。



電波の強さや装置の状態をランプで表示

電波の強さはランプで確認できるので、データ通信が可能かどうか一目でわかります。また、圏外/圏内、発信中、着信中、通信中などの状態も、ランプの色で識別できます。(●P10、11)



ワンポイント

PIAFSとは
PHSインターネットアクセスフォーラム標準の略称でPHSインターネットアクセスフォーラムで規定されたPHSを用いたデータ通信手順のことです。

64kPIAFSでデータ通信する場合は
お買い求め時は32kPIAFSでデータ通信を行う設定になっています。設定を64kPIAFSに変更してください。(●P17、29)

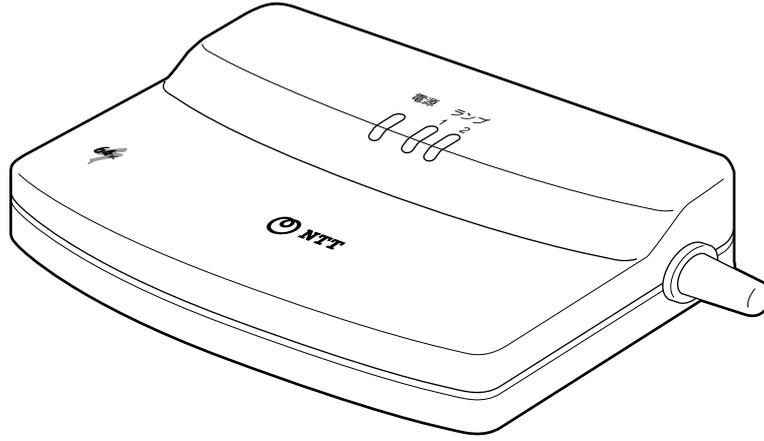


お知らせ

ISDNコードレスホンW-1000P、W-1100Pなどに接続して使用するときは、増設の設定が必要です。局番なしの116番または当社の営業所等へご相談ください。

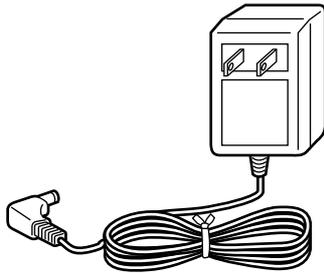
セットを確認してください

本体

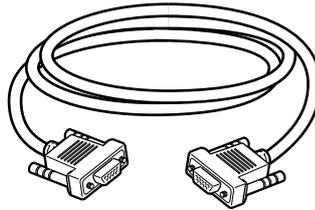


ワイヤレスパソコンアダプタ (1台)

付属品



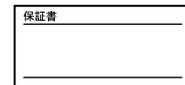
電源アダプタ (1個)
(コード約1.8 m)



RS-232Cケーブル (1本)
(約1.5 m)



取扱説明書 (1部)



保証書 (1枚)

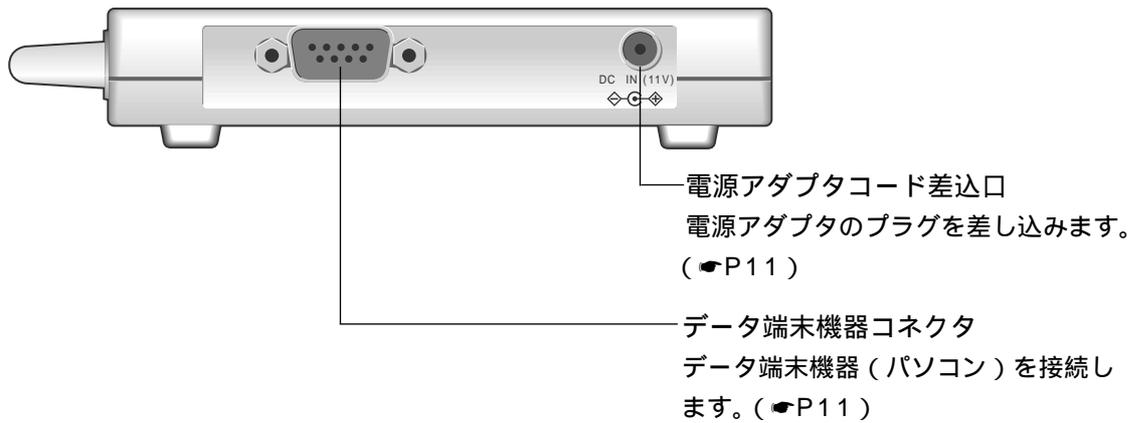
セットに足りないものがあつたり、取扱説明書に乱丁・落丁があつた場合などは、当社のサービス取扱所へご連絡ください。

各部の名前

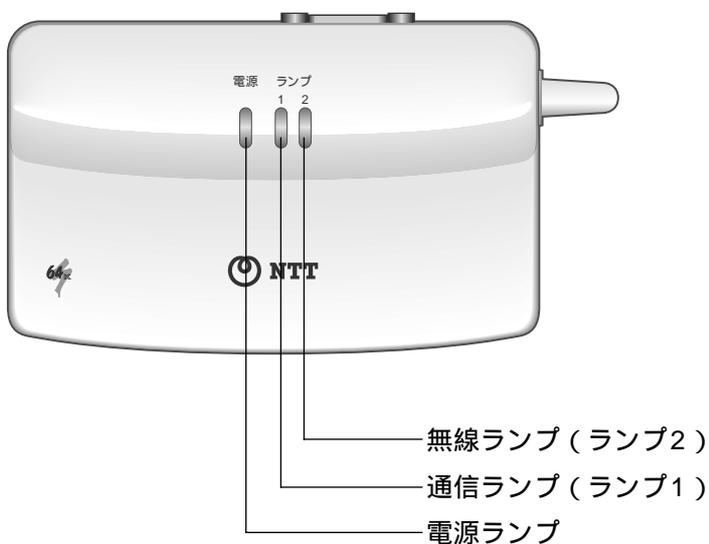
【上面】



【背面】

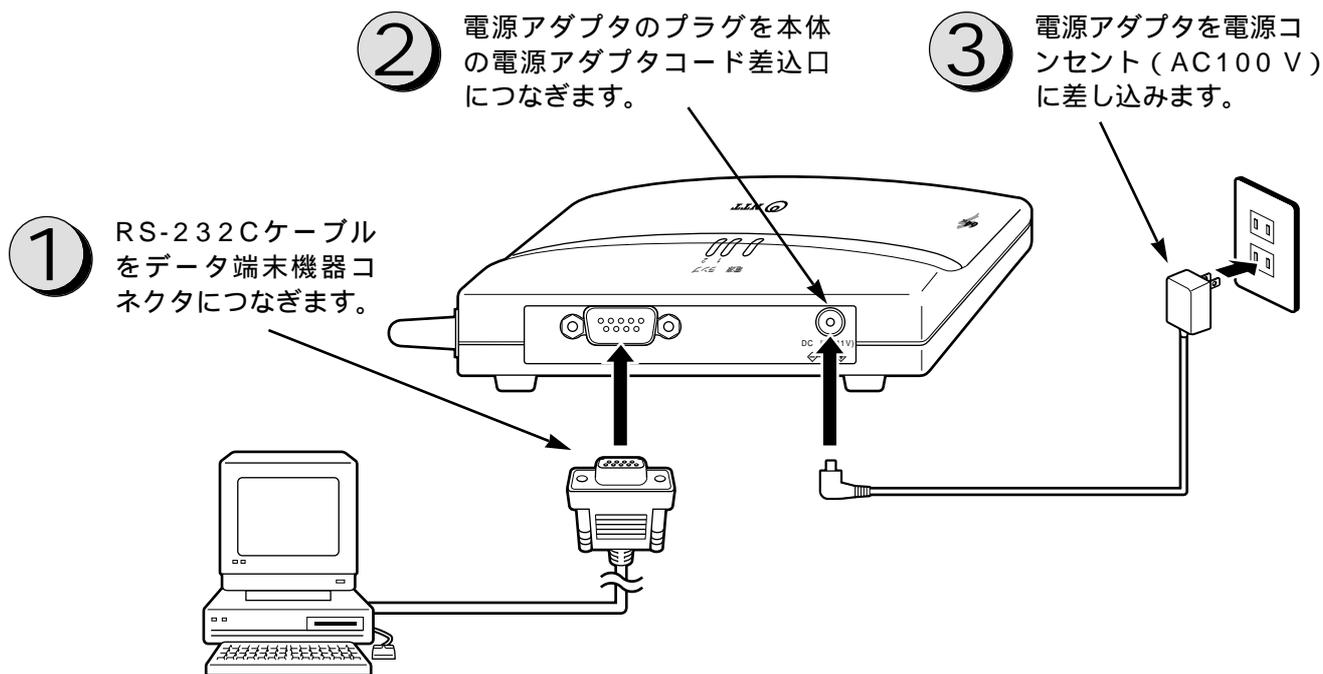


【ランプ表示】



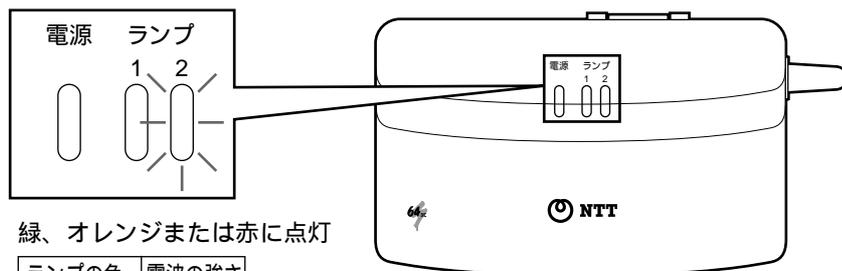
ランプの種類	ランプのつき方	本装置の状態
電源ランプ	点灯(緑)	電源が入っているとき
通信ランプ (ランプ1)	無点灯	待機中のとき
	点灯(オレンジ)	32kPIAFSで通信中のとき
	点灯(緑)	64kPIAFSで通信中のとき
無線ランプ (ランプ2)	点灯(赤)	発信中のとき / 着信中のとき
	点灯(オレンジ)	通信不可
	点灯(緑)	電波が弱い
	点灯(緑)	電波が強い

接続します



電波の状態を確認する

データ通信を行うときは、無線ランプ(ランプ2)が緑またはオレンジの状態のときに行ってください。電波の状態が悪いときはエラーが多発し、データ通信が停止することがあります。待ち受け時には、無線ランプ(ランプ2)の色で電波の状態を確認してください。



緑、オレンジまたは赤に点灯

ランプの色	電波の強さ
緑	強い
オレンジ	弱い
赤	通信不可



ワンポイント

パソコンに正しく接続されたか確認するにはパソコンに通信ソフトウェアがインストールされている場合は、ATコマンドを入力して、パソコンと正しく接続できたか確認することができます。(P20)



お知らせ

接続する機器の種類により、正常に動作できない場合がありますので、ご注意ください。
本装置は、Windows®98、Windows®95、Windows NT®4.0にのみ対応しています。
パソコンの種類によっては、本装置の付属ケーブル(コネクタ形状が、9ピンメス)では接続できない場合があります。その場合は、パソコンに合ったケーブルをご用意ください。
付属のRS-232Cケーブルを紛失または破損したときは、市販のRS-232Cケーブルをご購入ください。
電波状態の悪いところでお使いの場合は、100 m以内でも通信ができないことがあります。
接続したパソコンからなるべく離してお使いください。近づけると誤動作の原因となります。

インターネット利用に必要な準備

ここでは、本装置を使用してインターネットに接続するために必要な準備について説明します。

Windowsの場合

ご利用のOS 必要なもの	Windows®95 Windows®98	WindowsNT®4.0
プロバイダへの加入	インターネットに接続するサービスを提供するプロバイダに加入してください。	
TCP/IPソフトウェア	OSに付属しています。	
PPPモジュール	OSに付属しています。	
	ダイヤルアップネットワーク	
アプリケーション	WWW、電子メール、FTPなど、利用するサービスに合わせて用意してください。	



ワンポイント

インターネットに必要なソフトウェアはインターネットを利用するために必要な3種類のソフトウェアには、次のような働きがあります。

- TCP/IPソフトウェア
: 通信するためのネットワークプロトコルを提供します。
- PPPモジュール : アクセスポイントにダイヤルしてプロバイダのサーバに接続するためのソフトウェアです。
- アプリケーション : インターネットのさまざまなサービスを利用するためのソフトウェアです。



お知らせ

本書では、インターネットへの接続設定の操作を、Windows®98をご利用の場合を例に説明しています。

インターネット利用までの手順

インターネットに接続する一般的な手順です。

プロバイダへ加入する

- インターネットに接続するサービスを提供するプロバイダに加入します。
- プロバイダへの加入は、料金やアクセスポイントなどを調べて行ってください。
- プロバイダへ加入すると、ユーザ名、パスワード、DNSサーバのIPアドレス、アクセスポイントの電話番号などが通知されます。
- 詳細は、加入するプロバイダにお問い合わせください。

本装置をパソコンに接続する (P11)

- パソコンに正しく接続して、電源を入れます。

必要なソフトウェアをインストールする

- TCP/IPソフトウェア、PPPモジュールなどの必要なソフトウェアをインストールします。

設定を行う (P14)

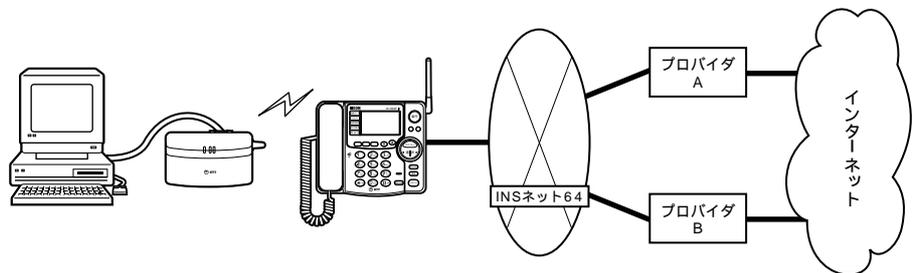
- 本装置を使用するための設定を行います。
- TCP/IPソフトウェア、PPPモジュールにプロバイダから通知された内容を設定します。

インターネットへ接続する

- PPPモジュールを使用してインターネットに接続します。
- インターネットのさまざまなサービスを利用するには、利用するブラウザやEメールなどのアプリケーションソフトが必要です。
- 詳細はソフトウェアメーカー、プロバイダにお問い合わせください。

インターネットとは

インターネットは網の目のように張り巡らされたネットワークで、世界中のコンピュータが結ばれています。一般の利用者は電話回線で当社のOCNなどのインターネットプロバイダに接続し、インターネットプロバイダを介してインターネットに接続されています。本装置にパソコンを接続すると、W-1000P、W-1100Pなどを介して、インターネットのさまざまなサービスをご利用いただけます。



インターネットへの接続を設定するには (Windows® 98の場合)

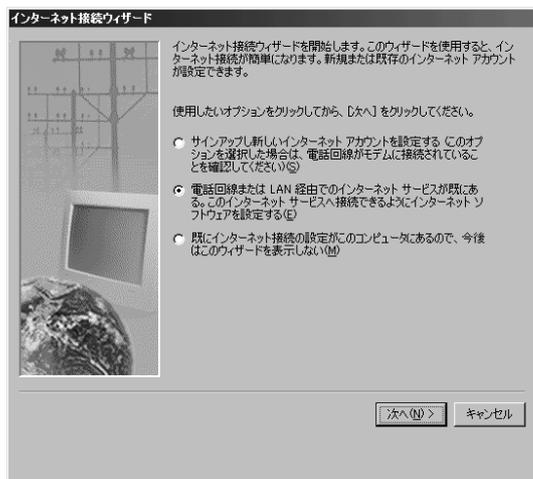
Windows® 98をご利用の場合は、インターネット接続ウィザードを利用して、インターネットの設定（モデムの設定、プロバイダの情報）を簡単に行うことができます。ここでは、本装置を使用してインターネットの設定を行うときの例を説明します。本装置とパソコンを正しく接続し、プロバイダから通知されたユーザ名、パスワード、DNSサーバのIPアドレス、アクセスポイントなどのメモを用意して設定を行ってください。

インターネット接続ウィザードで設定する

1 パソコンの電源を入れ、起動する。

2 [スタート] をクリックし、[プログラム] [Internet Explorer] の順にポイントし、[接続ウィザード] をクリックする。

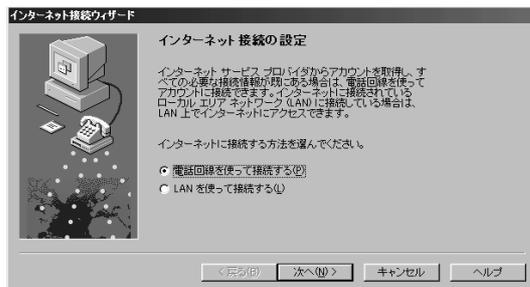
インターネット接続ウィザードが起動します。



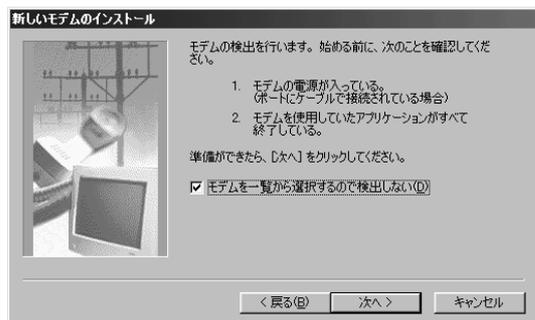
3 [電話回線またはLAN経由での...] のラジオボタンをクリックし、[次へ>] をクリックする。



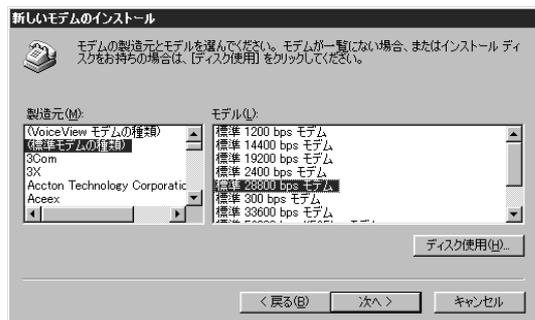
4 [インターネットサービスプロバイダやLANを利用して...] のラジオボタンをクリックし、[次へ>] をクリックする。



5 [電話回線を使って接続する] のラジオボタンをクリックし、[次へ>] をクリックする。



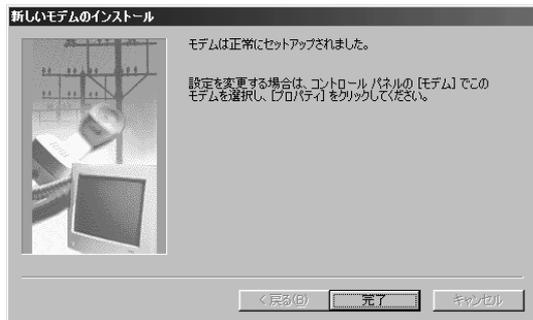
6 [モデムを一覧から選択するので検出しない] をチェックし、[次へ>] をクリックする。



7 [モデル]の中から[標準28800bpsモデム]を選択し、[次へ>] をクリックする。



8 [モデムを接続するポート]の中から[通信ポート (COM1)]を選択し、[次へ>]をクリックする。



9 [完了]をクリックする。



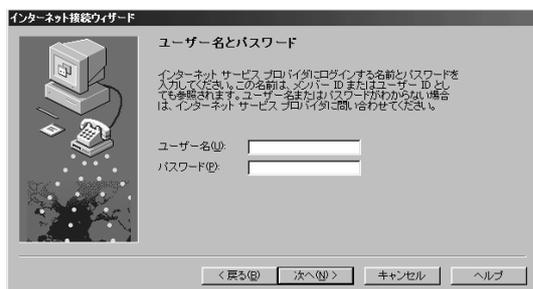
10 プロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ>]をクリックする。

市外局番... アクセスポイントの市外局番、先頭の0を除いた番号(例:03のときは3)

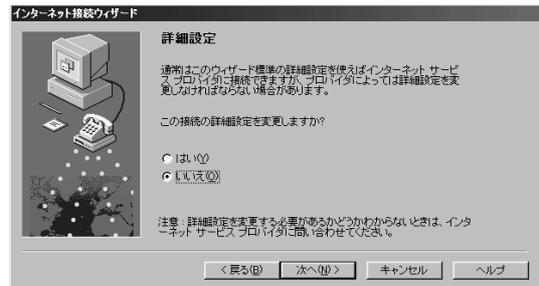
電話番号... アクセスポイントの電話番号

国番号..... プルダウンで[日本(81)]をクリック

アクセスポイントの市外局番が発信元と同じ場合は、電話番号のみを入力し、[国番号と市外局番を使ってダイヤルする]のチェックを外します。

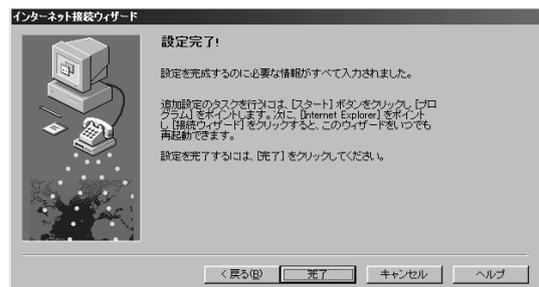


11 プロバイダからの案内に従って[ユーザ名]と[パスワード]を入力し、[次へ>]をクリックする。



12 表示される案内に従って、操作する。

[詳細設定][ダイヤルアップ接続名][インターネットメールアカウントの設定][インターネットニュースアカウントの設定][インターネットディレクトリサービスの設定]は、表示される説明を読んで必要に応じて設定してください。



お知らせ

64kPIAFS透過通信で接続する場合は、必ず64kPIAFS対応のアクセスポイントに接続してください。64kPIAFS透過通信で発信し、64kPIAFS非対応のアクセスポイントへ誤って接続した場合、いったん接続したあとに切断されることがあります。その場合は通話料が加算されますのでご注意ください。

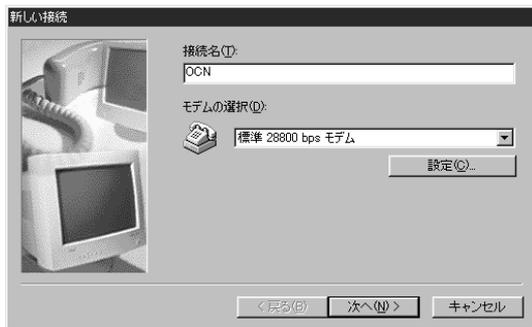
インターネットへの接続設定についての詳細は、各ソフトメーカー、プロバイダにお問い合わせください。接続条件によっては、操作手順が異なる場合があります。

ダイヤルアップネットワークで設定する

1 パソコンの電源を入れ、起動する。

2 [スタート] をクリックし、[プログラム] [アクセサリ] [通信] [ダイヤルアップネットワーク] の順にポイントし、[ダイヤルアップネットワーク] フォルダを開く。

3 [新しい接続] アイコンをダブルクリックする。



4 「接続名」に接続するプロバイダの名称などの、わかりやすい名前を入力する。

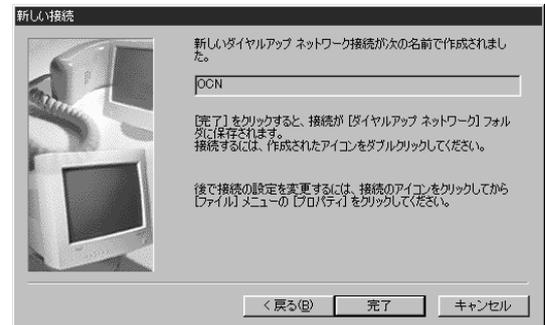
5 「モデムの選択」で[標準28800bpsモデム]をクリックし、[次へ>]をクリックする。



6 プロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ>]をクリックする。

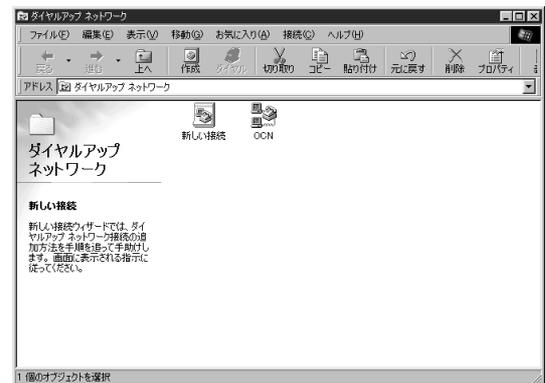
市外局番...アクセスポイントの市外局番、先頭の0を除いた番号(例: 03のときは3)
電話番号...アクセスポイントの電話番号
国番号.....プルダウンで[日本(81)]をクリック

アクセスポイントの市外局番は、発信元と同じでも必ず入力してください。



7 [完了] をクリックする。

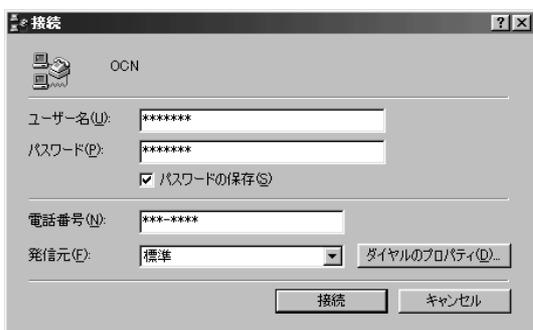
[ダイヤルアップネットワーク] フォルダに、作成した接続のアイコンが表示されます。



プロバイダとの接続を確認する

1 [インターネットエクスプローラ]アイコンをダブルクリックする。

[接続先]が表示されます。

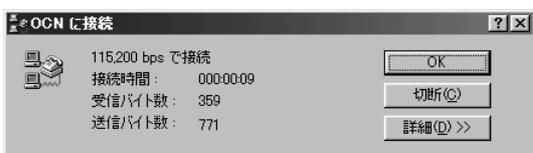


2 [接続]をクリックする。

アクセスポイントにダイヤルされ、インターネットに接続します。



3 接続を確認したら、タスクバーの[ネットワーク]をクリックする。



4 [切断]をクリックする。



お知らせ

64kPIAFS透過通信で接続する場合は、必ず64kPIAFS対応のアクセスポイントに接続してください。64kPIAFS透過通信で発信し、64kPIAFS非対応のアクセスポイントへ誤って接続した場合、いったん接続したあとに切断されることがあります。その場合は通話料が加算されますのでご注意ください。

インターネットへの接続設定についての詳細は、各ソフトメーカー、プロバイダにお問い合わせください。



ワンポイント

64kPIAFSで接続するには
お買い求め時は、32kPIAFSでデータ通信を行う設定になっています。

64kPIAFSを利用する場合は、「インターネット接続ウィザードで設定する」(P14)を行ったあと、以下のように設定してください。

[コントロールパネル]の[モデム]アイコンをダブルクリックする。

[標準28800bpsモデム]をクリックし、[プロパティ]をクリックする。

[プロパティ]中の[接続]タブをクリックし、[詳細]をクリックする。

[追加設定]として[ATS141=1]を入力する。



[OK]をクリックする。

無線区間通信速度、接続装置プロトコル変換の設定 (P29)

32kPIAFSに戻すには

「64kPIAFSで接続するには」の手順 ~ の操作を行う。

[追加設定]の[ATS141=1]を消去する。

[OK]をクリックする。

64kPIAFSの設定に変更する場合は、パソコンとワイヤレスパソコンアダプタとの間の通信速度を以下の手順で設定してください。

1.[コントロールパネル]の[モデム]アイコンをダブルクリックする。

2.[標準28800bpsモデム]をクリックし、[プロパティ]をクリックする。

3.[全般]の[最高速度]で[115200]をクリックする。

4.[OK]をクリックする。

2 インターネットへの接続

インターネットへの接続を設定するには

インターネットにうまく接続できない ときは

インターネットに接続できないときの、主なチェックポイントです。
「故障かな?と思ったら」(●P30)と合わせてご確認ください。

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
発信しない	接続ケーブルが外れている	本装置をパソコンに正しく接続してください	●P11
	接続ポートの設定が間違っている	パソコンのポートの設定が本装置を接続しているポートになっているか確認してください	-
「モデムからの応答がありません」と表示される	接続ポートの設定が間違っている	パソコンのポートの設定が本装置を接続しているポートになっているか確認してください	-
「モデムは他のプログラムで使用しています」と表示される	接続ポートを他のアプリケーションが使用している	アプリケーションを終了させてから接続し直してください	-
	モデム内蔵パソコンを使用している	外付けTAを使用する方法をパソコンの取扱説明書やパソコンメーカー窓口で確認してください	-
本装置の通信ランプが点灯したあと、消えてしまう	アクセスポイントの選択が間違っている	INSネット64回線用のアクセスポイントを選択しているか確認してください	●P15、16
	アクセスポイントの電話番号を間違っている	アクセスポイントの電話番号が正しく入力されているか確認してください	●P15、16
	DNSサーバの設定が間違っている	DNSサーバのIPアドレスとドメイン名の設定を確認してください	-
	ユーザ名、パスワードの入力が間違っている	ユーザ名とパスワードの設定を確認してください	●P15
	プロバイダが混んでいる	しばらく待ってから接続し直してください	-
	モデム情報の選択が間違っている	モデム情報の選択がアクセスポイントと合っているか確認してください	-

本装置で利用できるデータ通信の機能について解説します。
ATコマンド、レジスタについては、「3 ATコマンド」(●P20～29)を参照してください。

相手側の装置に発信して接続する

本装置と相手側装置との接続が完了すると、データ通信が行えます。
相手側の装置に発信して接続する方法は2種類あります。

登録した電話番号で発信する

AT&Zコマンドで電話番号を登録し、ATDSコマンドで登録した電話番号にダイヤルします。(●P24、27)

例 03-1234-5678を登録する場合
AT&Z=0312345678

例 登録した電話番号にダイヤルする場合
ATDS

電話番号を指定して発信する

ATDコマンドで電話番号を指定してダイヤルします。(●P24)

例 03-1234-5678を指定する場合
ATD0312345678

INSネット64回線で相手側の装置からの着信を受ける

着信があるときは、ATコマンドを実行することにより、相手からの着信要求に応答できます。本装置と相手側装置との接続が完了すると、データ通信が行えます。
相手側の装置からの着信を受ける方法は2種類あります。

自動着信する

ATSOコマンドで自動着信するまでのリング数を設定できます。(●P29)

自動着信すると相手側装置との接続が開始されます。接続が完了すると、パソコンに接続が完了したことが通知されます。

自動着信しない

ATSOコマンドで自動着信するまでのリング数を0に設定すると自動着信は行われません。応答するときは、ATAコマンドを実行します。(●P24)

着信すると、パソコンの画面に「RING」と表示されます。

通信を終了する

通信を終了するときは、+++ (エスケープシーケンス)と続けて入力し、コマンドモードにしてからATHOコマンドを実行します。(●P22、24)



ワンポイント

内線データ通信を行うには
本装置どうして、32kPIAFSデータ通信が行えます。
内線72から内線73へ発信する場合
内線72のパソコンのキーボードから「ATD73」と入力し、[Enter]キーを押します。
内線73のパソコンと接続(CONNECT)されればデータ通信が可能となります。



お知らせ

着信は個別着信のみです。サブアドレスを付けて着信させてください。それ以外の番号では着信しません。

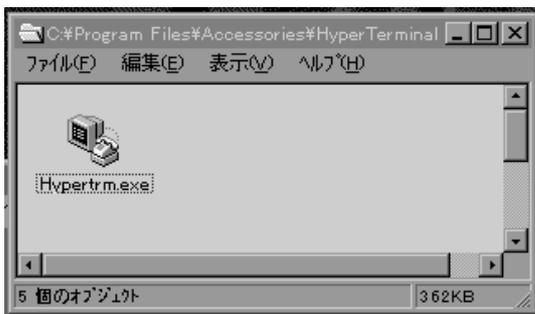
ATコマンドを入力するには

通信ソフトウェア（Windows® 95のハイパーターミナルなど）を利用して、ATコマンドを入力します。また、「AT」と入力することにより、本装置が正しく接続されていることを確認することができます。ATコマンドについては「ATコマンド形式」以降（P22～27）を参照してください。

例 Windows® 95のハイパーターミナルを利用する場合

- 1 [スタート]をクリックして、[プログラム] [アクセサリ]の順にポイントし、[ハイパーターミナル]をクリックします。

「ハイパーターミナル」が表示されます。



- 2 [Hypertrm]アイコンをダブルクリックします。
[接続の設定]ダイアログボックスが表示されます。



- 3 [名前]に任意の名前を入力し [OK]をクリックします。

本装置の設定用の名前を付けて保存すると便利です。



- 4 [接続方法]に本装置が接続されているポートへのダイレクトを選択し、[OK]をクリックします。

「COM1プロパティ」が表示されます。

例 com1ポートに接続しているとき...「com1へダイレクト」



- 5 通信速度などの設定を入力し、[OK]をクリックします。

ATコマンドを入力できる状態になります。



- 6 「AT」を入力し、リターン（またはEnter）を押します。

本装置が正しく接続されているときは、「OK」と表示されます。



ワンポイント

ATコマンドとは

ATコマンドとは、データ通信を行うときに本装置に対して設定を命令するためのコマンドです。ATコマンドを使用するためには、ATコマンド用のアプリケーションソフトがインストールされていなければなりません。

Windows[®] 98 / Windows[®] 95ではハイパーターミナルが標準で添付されています。ソフトのインストールや設定についての詳細は、ATコマンド用アプリケーションソフトやパソコンなどの取扱説明書を参照してください。

「OK」と表示されないときは

「OK」と表示されないときは、以下の点を確認してください。

- RS-232Cケーブル

本装置とご利用になるパソコンに適合したRS-232Cケーブルを使用しているか確認してください。



お知らせ

「ハイパーターミナル」以外の通信ソフトウェアをご利用の場合は、お使いのソフトウェアの説明書などを参照して起動し、ATコマンドを入力してください。

ATコマンド入力についての詳細は、各ソフトメーカー、プロバイダ、パソコン通信業者にお問い合わせください。

ATコマンド形式

ATコマンドは、米国Hayes社が開発したモデムを制御するためのコマンドで、多くのモデムで採用されています。本装置は、ATコマンドに準拠しており、さらに拡張コマンドを追加しています。

コマンド形式

ATコマンドは、以下の形式で入力します。

A T コマンド CR

ATで始まり、CRコードで終わります（無効のコマンドは、無視されます）。

結果コード

送出したコマンドに対して表示される本装置からの応答結果を、結果コードといいます。表示される結果コードには、数字形式と英文字形式があり、「ATVコマンド」で選択することができます。（●P25）

数字形式

結果コード（数字） CR

英文字形式

CR LF 結果コード（文字） CR LF

結果コードの一覧（●P28）

レジスタ

レジスタは、設定内容を記憶しておく場所です。本装置のレジスタには、以下のものがあります。

Sレジスタ...標準のレジスタ（自動応答など）（●P29）

コマンドモードとオンラインモード

パソコンから送信されたデータが、本装置を制御するデータか、相手へ送信するデータかを区別するため、次の2つのモードが用意されています。

コマンドモード

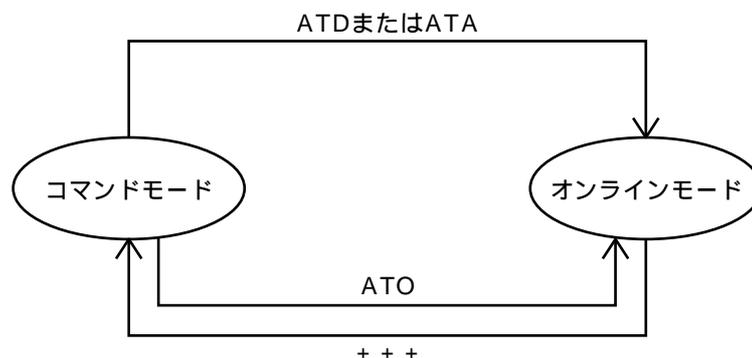
パソコンから入力した文字を、本装置の制御コマンドとみなすモードです。

オンラインモード

実際にデータ通信が行われているモードで、パソコンから入力した文字がそのまま通信相手へ送信されます。

初期状態ではコマンドモードになっており、ATDコマンドで発信したり、ATAコマンドで着信したあと、オンラインモードに切り替わります。

また、オンラインモードから一時的にコマンドモードに切り替えるコマンドとして、エスケープシーケンス（+++）があります。



本装置で利用できるATコマンドの一覧です。詳細は「ATコマンド詳細」(●P24~27)を参照してください。

コマンド	内 容	初期値
A	手動着信	
[A/]	直前に実行したコマンドの再実行	
D	発信	
En	エコー制御	1
Hn	切断	
In	製品情報表示	
O	通信状態復帰	
Qn	結果コードの有無	0
Sn	Sレジスタの書き込み	
Sn?	Sレジスタの表示	
Un	発着信番号表示の有無の設定	0
Vn	結果コードの表示形式	1
Zn	パラメータの初期化	
&Cn	回路CD制御	1
&Dn	回路ER制御	2
&F	フルリセット	
&Kn	フロー制御選択	3
&Sn	回路DR制御	0
&Wn	メモリへの記憶の設定	
¥S	レジスタ設定値表示	
¥Vn	PS結果コード表示	1
¥Zn	プロトコル表示	0
#SBn	発信者番号通知	0
#SNn?	電話番号要求	
#ST?	受信レベル表示	
&Z	電話番号登録	
&Z?	登録された電話番号の読み出し	

ATコマンド詳細

ATコマンドを入力するときにnが省略された場合、0が指定されたものとして動作します。

A	手動着信	
機能	着信に対して手動で応答します。	
書式	A	
入力例	ATA	
[A /]	直前に実行したコマンドの再実行	
機能	直前に実行したコマンドを再実行します。	
書式	[A /](ATは不要)	
入力例	A /	
D	発信	
機能	発信処理を行います。	
書式	D	
パラメータ	S	AT&Zで登録された電話番号にダイヤル
	L	最終番号の再ダイヤル
	0~9、#、*、 (、) -、Space	
入力例	ATD0312345678	
補足	ただし、電話番号中の(、) -、Spaceは無視します。 サブアドレスの区切りの初期値は「*」ですが、S103レジスタで「/」、「¥」、「*」の中から選択できます。「*」をサブアドレスの区切りに選んだ場合には、その記号は電話番号には使用できません。「#」は電話番号には使用できません。	
En	エコー制御	
機能	エコーをするか、しないか設定します。	
書式	En	
サフィックス	n=0	エコーしない
	n=1	エコーする(初期値)
入力例	ATE1	
Hn	切断	
機能	通信を切断します。	
書式	Hn	
サフィックス	n=0	切断する
入力例	ATH	
In	製品情報表示	
機能	本装置の製品情報を表示します。	
書式	In	
サフィックス	n=0	装置名 504853
入力例	ATI0	
O	通信状態復帰	
機能	コマンドモード(エスケープモード)から、オンラインモードへ戻ります。	
書式	O	
入力例	ATO	

Qn	結果コードの有無	
機能	結果コードを表示するかどうかを設定します。	
書式	Qn	
サフィックス	n=0	結果コードを表示する (初期値)
	n=1	結果コードを表示しない
入力例	ATQ0	
Sn	Sレジスタの書き込み	
機能	Sレジスタn番にパソコンより入力された値mを書き込みます。	
書式	Sn=m (n: Sレジスタ番号、m: 値)	
Sn?	Sレジスタの表示	
機能	Sレジスタn番の値をパソコンに表示します。	
書式	Sn? (nはSレジスタ番号)	
Un	発着信番号表示の有無の設定	
機能	着信したとき、自分の電話番号や相手の電話番号を表示するかどうかを設定します。	
書式	Un	
サフィックス	n=0	発信番号の表示なし、着信番号の表示なし (初期値)
	n=1	発信番号の表示あり、着信番号の表示なし
	n=2	発信番号の表示なし、着信番号の表示あり
	n=3	発信番号の表示あり、着信番号の表示あり
入力例	ATU0	
Vn	結果コードの表示形式	
機能	結果コードの表示形式を設定します。	
書式	Vn	
サフィックス	n=0	数字形式 (10進)
	n=1	英文字表示 (初期値)
入力例	ATV1	
Zn	パラメータの初期化	
機能	設定値をAT&Wnであらかじめメモリに記憶された内容に戻します。通信中の場合は、切断を行います。本コマンドから行末までのコマンドは無視されます。	
書式	Zn	
サフィックス	n=0	リセット
入力例	ATZ0	
&Cn	回路CD制御	
機能	回路CDの動作を設定します。	
書式	&Cn	
サフィックス	n=0	回路CDを常時ONにする
	n=1	相手端末と接続したとき回路CDをONにする (初期値)
入力例	AT&C1	

&Dn	回路ER制御	
機能	回路ERがONからOFFに変わったときの本装置の動作を設定します。	
書式	&Dn	
サフィックス	n=0	無視
	n=1	無視
	n=2	ONからOFFで回線切断（初期値）
	n=3	ONからOFFで回線を切断し、Zコマンド実行
入力例	AT&D2	
&F	フルリセット	
機能	<ul style="list-style-type: none"> すべてのATコマンドおよびSレジスタをデフォルトに戻します。 通信中の場合は、切断を行います。 	
書式	&F	
入力例	AT&F	
&Kn	フロー制御選択	
機能	フロー制御を設定します。	
書式	&Kn	
サフィックス	n=0	フロー制御しない
	n=3	RS/CSでのハードウェアフロー制御（初期値）
	n=4	XON / XOFFでのソフトウェアフロー制御
入力例	AT&K3	
&Sn	回路DR制御	
機能	回路DRの動作を設定します。	
書式	&Sn	
サフィックス	n=0	常時ON（初期値）
	n=1	回路DRは回路ERにしたがう
入力例	AT&S0	
&Wn	メモリへの記憶の設定	
機能	現在の設定値を記憶します。	
書式	&Wn	
サフィックス	n=0	メモリへ記憶する
入力例	AT&W0	
補足	記憶すべき設定値は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ATコマンド En、Qn、Sn、Un、Vn、&Cn、&Dn、&Kn、&Sn、¥Zn、#SBn Sレジスタ S0、S2、S3、S4、S5、S7、S12、S32、S33、S103、S141、S142 	
¥S	レジスタ設定値表示	
機能	ATコマンド、Sレジスタの設定値を表示します。	
書式	¥S	

¥Vn	PS結果コード表示	
機能	103から107の結果コードを表示するかどうかを設定します。	
書式	¥Vn	
サフィックス	n=0	105を除く結果コードを表示
	n=1	表示しない(初期値)
	n=2	表示する
入力例	AT¥V1	

¥Zn	プロトコル表示	
機能	接続プロトコルの表示を設定します。	
書式	¥Zn	
サフィックス	n=0	アダプタ間プロトコルを表示しない(初期値)
	n=1	アダプタ間プロトコルを表示する
入力例	AT¥Z0	

#SBn	発信者番号通知	
機能	発信者の番号を相手に通知するかどうかを設定します。	
書式	#SBn	
サフィックス	n=0	通知しない(初期値)
	n=1	発信者番号を通知する
入力例	AT#SBO	

#SNn?	電話番号要求	
機能	本装置の内線番号をパソコンに表示します。	
書式	#SNn?	
サフィックス	n=10	内線番号を表示
入力例	AT#SN10?	

#ST?	受信レベル表示	
機能	受信レベルを表示します。	
書式	#ST?	
入力例	AT#ST?	
表示	<p>0; 3段階表示: 受信した電波の強さ: 使用しているモード 表示は以下の内容を表示します。</p> <p>3段階表示 0: 通信不可 1: 弱い 2: 強い 7: 通知不可 受信した電波の強さ 電波の強さを数値で表します。値が大きいほど電波が強いことを示します。</p>	

&Z	電話番号登録	
機能	ATDSコマンドにより発信する場合の電話番号を登録します。	
書式	&Z=n	
パラメータ	n: 電話番号	
入力例	AT&Z=0312345678	

&Z?	登録された電話番号の読み出し	
機能	AT&Zで登録された電話番号を読み出します。	
書式	&Z?	

数字	文字	意味
00	OK	ATコマンドが正しく実行されました
01	CONNECT	発着信の結果、相手と通信状態になりました データ通信モードへ復帰しました
02	RING	着信がありました
03	NO CARRIER	回線が切断されました
04	ERROR	コマンドフォーマットエラー コマンド状態エラー
07	BUSY	相手が使用中です
10	CONNECT 2400	通信速度2 400 bit/sで接続しました
11	CONNECT 4800	通信速度4 800 bit/sで接続しました
12	CONNECT 9600	通信速度9 600 bit/sで接続しました
15	CONNECT 14400	通信速度14 400 bit/sで接続しました
16	CONNECT 19200	通信速度19 200 bit/sで接続しました
17	CONNECT 38400	通信速度38 400 bit/sで接続しました
18	CONNECT 57600	通信速度57 600 bit/sで接続しました
19	CONNECT 115200	通信速度115 200 bit/sで接続しました
69	COMPRESSION:NONE	圧縮なしで接続しました
82	PROTOCOL:PIAFS	32kPIAFSで接続しました
85	PROTOCOL:PIAFS64	64kPIAFSで接続しました
103	NOT READY	リダイヤル規制時間内です
104	OUT OF SERVICE	圏外です
105	IN SERVICE	圏内です
107	RESTRICTION	発信規制中です

Sレジスタ

レジスタ	説明
S0	自動応答 設定値：0～255 初期値：0
	0 自動応答しない
	1～255 設定値の数だけRING（結果コード）を送出後、自動応答する RING送出間隔は約3秒
S1	RING送出回数（参照専用、設定不可）
S2	エスケープ文字 設定値：0～127 初期値：43（+）
	0 エスケープ文字なし
	1～127 設定した文字でエスケープする（IA5キャラクタコード）
S3	復帰文字 設定値：0～127 初期値：13（[CR]）
	0～127 設定した文字を復帰文字とする（IA5キャラクタコード）
S4	改行文字 設定値：0～127 初期値：10（[LF]）
	0～127 設定した文字を改行文字とする（IA5キャラクタコード）
S5	後退文字 設定値：0～32、127 初期値：8（[BS]）
	0～32、127 設定した文字を後退文字とする（IA5キャラクタコード）
S7	接続時間監視 設定値：1～59 初期値：58
	1～59 発信のとき、設定時間（秒）以内に応答がない場合は切断する
S12	エスケープガード時間 設定値：0～255 初期値：50
	0 タイマ値を設定しない
	1～255 設定値×0.02秒をガード時間とする
S32	XON文字 設定値：0～127 初期値：17
	ソフトフロー制御時の送信許可文字（XON）を設定する
S33	XOFF文字 設定値：0～127 初期値：19
	ソフトフロー制御時の送信禁止文字（XOFF）を設定する
S103	サブアドレスの区切り 初期値：2
	0：/ 1：¥ 2：*
S141	無線区間通信速度・接続装置プロトコル変換 初期値：0
	0：32kPIAFS 1：64kPIAFS
S142	フォールバック指定 初期値：1
	0：フォールバックOFF 1：フォールバックON

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったらときは、修理に出す前に次の点を確認してください。

こんなとき	原因	確認してください	参照ページ
動作しない	接続方法が間違っている	正しく接続してください	☛P11
	電源アダプタがコンセントから抜けている	電源アダプタを正しく差し込んでください	☛P11
インターネットに接続できない	RS-232Cケーブルが正しく接続されていない	本装置とご利用になるパソコンに適合したRS-232Cケーブルを使用してください	☛P11、21
	ユーザ名、パスワード、サーバの設定が間違っている	正しく設定してください	☛P15
パソコン通信に接続できない	RS-232Cケーブルが正しく接続されていない	本装置とご利用になるパソコンに適合したRS-232Cケーブルを使用してください	☛P11、21
通信ができない	電波の弱いところにいる	電波の強いところへ移動してください	☛P11
	主電話機から離れすぎている	主電話機に近づいてください	☛P11
	主電話機との間に障害物がある	場所を変えてください	☛P11
	ISDNコードレスホンW-1000P、W-1100Pなどの主電話機に増設の設定がされていない	当社のサービス取扱所またはお買い求めになった販売店にご相談ください	

数字 / アルファベット

32kPIAFS	8
64kPIAFS	8、17
ATコマンド	22
ATコマンド一覧	23
ATコマンド形式	22
ATコマンド詳細	24
ATコマンドを入力する	20
DNSサーバ	13、18
INSネット64回線	8、19
IPアドレス	13、18
PIAFS	8
PPP	12、13
RS-232Cケーブル	9、11、21
Sレジスタ	22、29
TCP/IP	12、13
Windows® 98	12、14

五十音

【ア行】

アクセスポイント	13、15、16
インターネット	
準備	12
接続できないときのチェックポイント	18
接続の設定 (Windows® 98の場合)	14
利用までの手順	13
インターネット接続ウィザード	14
エスケープシーケンス	19、22
オンラインモード	22

【カ行】

国番号	15、16
結果コード	22、28
故障かな?と思ったら	30
コマンド形式	22
コマンドモード	22

【サ行】

市外局番	15、16
自動着信	19
終了	
通信を終了する	19

仕様	32
接続	
インターネットへの接続を設定する (Windows® 98の場合)	14
プロバイダとの接続を確認する	17
本装置を接続する	11

【タ行】

ダイヤルアップネットワーク	16
着信	19
通信ソフトウェア	11、20
通信ランプ	10
データ端末機器コネクタ	10
データ通信	19
電源アダプタ	9、11
電源アダプタコード差込口	10、11
電源ランプ	10
電波の状態	11
電話番号	15、16

【ハ行】

ハイパーターミナル	20
パスワード	13、14、15
発信	19
付属品	9
プロバイダ	12、13、17
保守サービス	33

【マ行】

無線接続	8
無線ランプ	10、11

【ヤ行】

ユーザ名	13、14、15
------	----------

【ラ行】

ランプ表示	10
レジスタ	22、29

通信規格	PIAFS (PHS Internet Access Forum Standard) 準拠
通信方式	全二重 (データのみ)
制御コマンド	ATコマンド
通信速度	最大58 400 bit/s
パソコンとの転送速度	2 400、4 800、9 600、14 400、19 200、38 400、57 600、115 200 bit/s
エラー訂正	PIAFS準拠
無線区間インタフェース	RCR STD-28 第3版準拠
ホストインタフェース	RS-232Cインタフェース (9ピン DSUBコネクタ)
使用電源	AC100 ± 10 V (50/60 Hz)
消費電力	約7 W
外形寸法	約138(縦) × 約77(横) × 約25(高さ) mm (アンテナの突起含む)
質量	約120 g

保証について

保証期間(1年間)中の故障につきましては「保証書」の記載にもとづき当社が無償で修理いたしますので、「保証書」は大切に保管してください。(詳しくは「保証書」の無料修理規定をご覧ください。)

保守サービスについて

保証期間後においても、引き続き安心してご利用いただける「定額保守サービス」と、故障修理のつど料金をいただく「実費保守サービス」があります。

当社では、安心して商品をご利用いただける定額保守サービスをお勧めしています。

保守サービスの種類は

定額保守サービス	毎月一定の料金をお支払いいただき、故障時には当社が無料で修理を行うサービスです。
実費保守サービス	修理に要した費用をいただきます。 (修理費として、お客様宅へおうかがいするための費用および修理に要する技術的費用・部品代をいただきます。) (故障内容によっては高額になる場合もありますのでご了承ください。) 当社のサービス取扱所まで商品をお持ちいただいた場合は、お客様宅へおうかがいするための費用が不要になります。

故障の場合は

故障した場合のお問い合わせは局番なしの113番へご連絡ください。

お話し中調べは

お話し中調べは局番なしの114番へご連絡ください。

その他

定額保守サービスの料金については、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ：0120-109217
トークニーナ

補修用部品の保有期間について

この商品の補修用性能部品(商品の性能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後、7年間保有しています。

MEMO



この取扱説明書は、
エコマーク認定の
再生紙を使用して
います。

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センタへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センタ： 0120 - 109217

トークニーナ

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

©1999 NTTEAST・NTTWEST



本1884-3(99.10)
W-PADPトリセツ